

わが国における理学療法学の 大学教育の現状調査結果から

(一社) 全国大学理学療法学教育学会
理事長 長澤 弘

神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科

理学療法学の大学・大学院

現況調査 (平成27年3月報告)

- 理学療法学教育の現状を把握すべく、理学療法士を養成している本邦の大学・大学院の全数調査（95大学・57大学院）を実施した。
- 独自に作成した自己記入式調査票を用いて、学位、定員数、教員組織、主たる研究領域等の概要について調査を行った。

学部教育の学生定員と教員数

- 学部教育における1学年定員合計数は、4,741名
- 教員数（助教を含む）の合計は、1,005名
 - 教員一人当たりの学生数
 - 国公立系大学：10名程度
 - 私立系大学：20名程度
 - 国が定めた教員数基準は満たされていた
 - 1学年定員40名で教員6名、80名で教員9名
(理学療法士作業療法士 学校養成施設 指定規則 第二条)

学科（専攻）の教員組織と各職位における理学療法士の人数

	国立系 大学	公立系 大学	私立系 大学	全 体
学生定員数（人）	19.6	29.0	59.1	50.2
教員数(全体)（人）	9.8	13.3	14.4	13.6
教員数(理学療法士)（人）	7.5	11.5	11.1	10.6
教授数(理学療法士)	2.6	4.0	3.1	3.2
准教授数(理学療法士)	1.8	2.7	2.6	2.5
講師数(理学療法士)	0.5	1.4	2.9	2.4
助教数(理学療法士)	2.6	3.4	2.4	2.5
PT教員のうち、教授の比率(%) (教授職／PT教員数)	34.6	34.2	28.0	29.6
PT教員一人あたりの学生数(人) (定員×4学年／理学療法士教員)	10.4	10.2	21.6	18.8

大学教員の職位と学位取得状況

- 理学療法士有資格者の職位
 - 教授の割合：30～35%程度
 - 助教以上で94%が修士号以上の学位を取得
- 教育の質という点から、専修学校に比較して大学教育での優位性が伺われる
(H27年度 理学療法士 国家試験合格率の比較からの考察)
 - 全国平均の合格率 74.1%
 - 大学卒業者の合格率 83.6%
 - 専修学校卒業者の合格率 69.0%
- 学部生の大学院への進学率が高い
 - 国立系大学：23.4%
 - 公立系大学：10.1%
 - 私立系大学： 2.3%

卒業研究の位置づけ

- 大学院教育に影響を及ぼす科目として
 - 必修科目としている：81%
 - 単位数4単位で、1年間の実施期間がほとんど
 - 1人で1テーマの研究：62%
 - 研究発表会の実施：92%
 - 論文集作成：82%
- 研究マインドを身につけた質の高い理学療法士を輩出している

理学療法学領域大学院の現況

- 修士課程における学位名称
 - 「保健学」：25%
 - 「理学療法学」：11%
 - 「保健医療学」：11%
- 学部での学位名称は「理学療法学」が72%であるが、大学院では複合領域（例えば作業療法学）としての定員になっている
- 修士課程の定員合計数：538名
- 社会人入学者比率は、国立系で50%，公立系・私立系で75%に達し、社会人のリカレント教育としても役に立っている現状がある

博士後期課程

- 複合領域での定員として：90%
- 定員総数：296名（推計最大数）
- 社会人入学者の比率
 - 国立系大学院：70%弱
 - 公立系・私立系大学院：80%強
- 修士号取得者合計数：2,548名
- 博士号取得者合計数： 479名
 - 研究職や教育職を目指す理学療法士も増加しつつあり、社会貢献と理学療法学の質向上につながっている

まとめ

- 理学療法学教育は、4年制大学教育で約40%なされており、質の担保の観点からも、大学教育体制が望ましい
- より良い教育を実施し、社会に貢献できる理学療法士を排出するために、教員の質も維持向上していく必要がある
- 社会人のリカレント教育の一環として、大学院の果たす役割も大きい